

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月1日

【評価実施概要】

事業所番号	270301641		
法人名	株式会社東建設計		
事業所名	グループホーム音寿園		
所在地 (電話番号)	〒031-0071 青森県八戸市沼館一丁目10-13 (電 話) 0178-73-2515		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 20年 9月 16日	評価確定日	平成 20年 11月 1日

【情報提供票より】(平成20年8月27日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 2月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 18人, 非常勤 4人, 常勤換算	10.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A棟27,000円 B棟23,010円		その他の経費(月額)	A棟12,000円 B棟16,020円	
敷 金	有(円)		(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり 1,000 円				

(4) 利用者の概要(8月27日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0	名	要介護2	5	名
要介護3	7	名	要介護4	5	名
要介護5	1	名	要支援2	0	名
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	八戸城北病院、湊病院
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

工場群と大型商店が混在し、その中に閑静な住宅街があり、買物、活動等にも適しています。管理者は運営理念「生き生きと穏やかに」を掲げ、一人ひとりの思いや希望を受け止め、日々のケアに生かされています。又、その名称の通り音楽療法を取り入れ声を出すこと、音楽を演奏することを通して利用者、職員共に楽しみ、サービス向上に努められています。八戸市らしくホームにえんぶりのえぼし(本物・過去に使用されたもの)が飾っており、地域の特性が生かされています。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	自己評価及び外部評価については、全職員が評価の意義を理解し、月2回のケース会議等で見直しの機会とし、積極的な話し合いがなされ共有化が図られている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価の作成には全職員が参加され、その結果は全職員へ公表、伝達し、共有化が図られている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目	地域の集会場を借用し、ホームの検討事項、経過報告等がされ、理解して頂いている。老人クラブ、町内会行事にも参加し交流が図られている。火災訓練時には地元消防団の参加、アドバイスもあり、関係強化が図られサービス向上に生かされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
重点項目	家族とのコミュニケーションを深める為、便りの送付、行事案内、来園時の声掛け(利用料持参時・面会時)等に話しあわれている。運営推進会議に家族参加があり、出された意見・要望はケース会議で伝達され、サービスに反映されるよう努めている。アンケート調査も実施されている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会・老人クラブに加入し、町内の行事にも参加している。音楽ライブ、紙芝居、夏祭りには町内婦人部の踊りも披露されて、町内ボランティアの来園もなされている。地区中学校、短大生等の若者との交流も行われている。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者にとって地域の中でその人らしく暮らすことができるように支える事を心掛け、地域・生活の継続・地域との交流を謳った理念をつくりあげ掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は日々のミーティングや月2回のケース会議の際に、理念を再確認し、その人らしさに繋げることを振り返り、ケアの実践に生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の一員として町内会・老人クラブ等に参加し、その活動に参加している。夏祭りには町内婦人部の踊りがあり、又、老人クラブ会で認知症劇を行い、理解を深める活動がなされている。更に地区金融機関支店内ギャラリーに利用者の作品を展示したり、中学校、短大生との交流が行われている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義とねらいについて全員で話し合いが行われ共有化が図られるとともに、評価は全員が参加された。また外部評価の結果はミーティングやケース会議等で報告されサービスの質の向上が図られている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の集会所を利用し、2ヶ月に1回ホームの検討事項、経過報告等がなされ、参加者からの意見交換を受けている。その結果は全職員に伝達され、サービスの質の向上に生かされている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市介護保険課、地域包括支援センターに広報誌を届けたり、集団指導や運営推進会議、その他問合せ等で関係づくりを行っている。また研修用ビデオを借用し、関係強化を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護制度について、管理者が受講し全職員に伝達されている。現在利用者1人が成年後見人手続き中であり、10月裁判所より訪問調査が実施されるため、全職員の理解度は深まっている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は高齢者虐待防止の研修を受けミーティング、ケース会議等で全職員へ伝達されている。その資料は掲示されている。全職員はお互いに啓蒙し合い、理解を深めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書、契約書等丁寧に説明し納得を得た上で手続きを進めている。利用料金、リスク、重度化等も詳しく説明し同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは毎月便り(写真付きハガキ、暮らしぶり、健康状態等)を送付し積極的に行事案内等も行っている。またお小遣い帳を作成し、領収書と共に毎月お届けしている。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ほとんどの家族は料金をホームに持参されるのでその機会を生かし、声がけをし、ご意見、ご要望等頂くよう留意している。ご意見箱も設置され、アンケート調査を行いサービス向上に反映されるよう努めている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年より職員の異動がなく馴染みの職員による継続的なケアがなされている。新しい職員が入る場合には、利用者、家族へ説明し紹介されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は事業所内外の研修を平等に受ける機会が与えられるよう配慮されている。その結果の発表は毎月の全体会議で行われ職員間で情報交換があり、共有化が図られ報告書はいつでも閲覧可能である。		
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市グループホーム協会の理事として活動され経験を活かし、質の向上に努めている。協会主催の講習会・懇親会等への職員の参加を積極的に行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所時は混乱も見られる為、言葉や表情を十分観察し、安心感を持ってもらうようにしている。又家族の了解を得て自宅で使用されていた物をお願いし、置き場所、飾り等は家族と共に実施されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、利用者は人生の先輩であるという考えを共有しており、あせらず、急がずをモットーに穏やかな生活が出来るよう支援されている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアを主とし、日々の関わりの中で言葉や表情等から利用者のニーズの把握に努め、意思疎通が困難な方は家族・知人・関係者の意見を取り入れるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や本人をよく知る家族そして事業所内外の関係者と話し合い、その結果を生かした利用者主体の介護計画が作成されている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、遂行状況効果、家族の要望、ケア関係者の情報や気づき等を最大限反映させ毎月見直しがされ、家族に報告されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の方の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会・外出・外泊は自由に来る。また病院への通院は原則家族対応となっているが、状況に応じ通院は職員の手援助がある一方、ホーム所有のリフト車の貸し出しを行いなど、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族と相談の結果、これまでのかかりつけ医となっている。又、受診・通院は家族が基本であるが、困難な場合は職員が代行するようにしており、契約時に説明し同意を得ている。		
22	44	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は体制づくりの必要性を認識し、職員の話し合いがなされ延命処置、緊急時の家族への連絡方法等ルール作りをし、家族との合意がなされている。	○	事業所・医師・看護師・家族の協力の下、緊急時家族がかけつける迄の処置についての話し合いを更に続けられることを期待したい。
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング・ケース会議時、職員間で振り返りがなされ、一人ひとりの人種尊重、プライバシー保護に配慮するケアを行うよう話し合われている。		
24	49	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	コミュニケーションを大切に、日常の会話、日々の体調、行動等から希望や要望を汲み取り穏やかに過せるよう個別に支援がなされている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を一日の大切な活動とし、利用者と共に調理の準備、盛り付け、配膳等を行い食事は利用者と職員が同じテーブルで楽しみながらされている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人や家族から生活習慣や好みをよく聞いて相談しながら個別の入浴支援を行っている。入浴を拒む人に対して家族の協力の下、その人に合わせた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事づくり、植木鉢の手入れ、書道、生花等一人ひとりの力を発揮してもらえるよう支援がなされている。また音楽療法を中心にして紙芝居、ショッピング等積極的に活動がされ張り合いや喜びを見出せるよう努めている。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	立地条件を生かし、外出を社会参加と捉え、天気、本人の気分や希望に応じて日常的に散歩、ドライブ等に出かけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理職員は研修、勉強会に参加しその結果をケース会議で伝達され身体拘束の内容とその弊害を認識し、情報の共有化が図られている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はプッシュ式自動ドアであるが、利用者の外出の気配を見落とさないよう務め、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災訓練は年2回行っており、今年は地元消防団の協力を得ている。運営推進会議では地震対策も話しあい、準備もされている。	○	火災訓練の際、職員による消火器の使い方も実行される事を期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の食事摂取量、水分補給は記録されており、一人ひとりの一日の栄養摂取量については、大まかに把握されている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、予防に努めている。更新もされている。また家族の同意を得、職員利用者全員がインフルエンザ予防接種を受けている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は床、手すり、カウンター等工夫されたつくりで季節感を意識的に取り入れており、利用者にとって居心地のよい場所となっている。	○	正面玄関廊下付近が若干、雑に物品が置かれていたため整理されることを期待します。
35	80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時家族と相談をし、利用者の好みや馴染みのものなど生活スタイルに合わせ持ち込んでおり、その人らしい部屋になっている。		

 は、重点項目。